

『被災者中心の災害ボランティアセンターとするために』災害ボランティアセンターコーディネーター研修プログラム開発委員会報告書』(要旨)

防災ボランティア活動検討会 事務局
株式会社 ダイナックス都市環境研究所

1. 報告書の概要

- ・ 本報告書は、社会福祉協議会や災害支援にかかわる NPO 等が協働して開発された、災害ボランティアセンターにおいて中核的に企画・運営にかかわることができるコーディネーターのための研修プログラムを提案するものである。
- ・ 今後、都道府県・指定都市などの社会福祉協議会や広域の NPO 支援組織などが、災害ボランティアセンターにおいてコーディネーターとしての機能を担うことができる人材の為に研修を実施するに際して、基本となる一連のプログラムパッケージとなっている。
- ・ 研修プログラム開発にあたっては、災害ボランティアセンターにおいてこれまで中核的な役割を担ってきた、あるいは、災害支援に関して経験・見識を有する、学識経験者、社会福祉協議会職員、NPO 関係者、災害支援のネットワーク関係者などによって「災害ボランティアセンターコーディネーター研修プログラム開発委員会」を設置した。

2. 社協と災害ボランティアセンターをめぐる課題 - 本委員会設置の背景

(1) 多発する災害と定着した災害ボランティアセンター

- ・ 台風・豪雨災害などが多発するなか被災地の市区町村社協が災害ボランティアセンターの立ち上げに中心的に関わり、災害支援活動を展開することが定着し、一定の社会的評価も得るようになった。
- ・ 災害時における災害ボランティアセンターの運営や災害支援活動を通して、いくつかの課題が明らかになった。

(2) 中核的なコーディネーター養成・確保の課題

- ・ 災害ボランティアセンターにおいて、被災者のニーズやその変化を積極的にとらえ、活動の展開・継続を図るコーディネーター機能が重要であった。
- ・ 活動経験や力量をもったコーディネーター人材が不足しており、その育成が大きな課題となった。

(3) 社協と NPO 等の「協働」をめぐる課題

- ・ 災害ボランティアセンターの設置・運営にあたって、社協と NPO との連携・協働が必ずしも円滑ではなかった。
- ・ 社協も NPO も「被災者中心」「被災地主体」の視点から自らの課題を認識しつつ、互いの特性・特徴を尊重し合い、あらかじめ効果的な連携・協働のあり方や役割分担を構想し共有することが不可欠であるという認識が深まった。

(4) 被災地に対する広域支援機能及び全国的な相互支援ネットワーク確立の課題

- ・ 大規模災害の際には、被災地のセンターの後方支援を行う広域支援センターの役割が重要となる。
- ・ 広域支援センターをバックアップするためのブロック単位や全国的な相互支援体制の充実が望まれる。

3. 想定している災害ボランティアセンターのタイプと協働体制の重視

(1) 本委員会が想定する災害ボランティアセンターのタイプ

- ・ 被災地全体を包括的に支援対象とするタイプ。
- ・ 当該地域のさまざまな団体・機関の協働で設置・運営されているタイプ。
- ・ 都道府県域や全国段階の支援組織などとの連絡窓口として機能するタイプ。

(2) 「協働プロセス」による試行

- ・ 当委員会自体を社協と NPO 等との協働体制としている。検討作業やコーディネーター研修を「協働プロセス」(企画、運営、講師、参加者とも)で試行したものである。
- ・ 今後各都道府県・指定都市域等でのコーディネーター研修の企画・実施や災害支援体制づくり、災害ボランティアセンターの設置・運営にあたって「協働」プロセスを重視が必要。

4. 「研修プログラム案」とめざすコーディネーター像

(1) 目的

- ・ 災害発生時に中核となって災害ボランティアセンターの立ち上げ・調整・運営等にあたることのできる人材の裾野を広げる。
- ・ 災害支援の目的を理解し、災害ボランティアセンターならびにセンターを運営するコーディネーターの役割・機能や望まれる知識・スキルを理解し、日常の活動と結びつけつつ、自らの能力を高める意欲をもった人材の裾野を広げる。

(2) 対象

- ・ 被災地の災害ボランティアセンターにおいて、地元の中核スタッフとして、あるいは、外部からの支援スタッフとして、センターの運営や連絡調整等に経験を有する人。
- ・ 今後、災害支援活動や災害ボランティアセンターが設立された際に中核的に関わる可能性が高い、あるいは関わることを期待されている人(派遣先での支援を含む)。

(3) 災害ボランティアセンター及びコーディネーターに求められる5つのテーマ

- ・ テーマ1「災害支援活動・災害ボランティアセンターの系譜」の理解
- ・ テーマ2「災害ボランティアセンターの目的、役割、機能」の理解
- ・ テーマ3「災害ボランティアセンターの運営」の理解
- ・ テーマ4「災害ボランティアセンターにおけるコーディネーターの役割」の理解
- ・ テーマ5「日常の地域福祉活動と災害支援活動との関わり」の理解

5. 今後の課題と展望

- ・ 都道府県・指定都市社協等が実施する関連研修に反映されることが期待される。
- ・ 市区町村社協にとっては、社協の災害支援活動のあり方、災害ボランティアセンター及びコーディネーターの役割、災害支援活動と日常の社協活動との関わり等についての指針となるもの。
- ・ 災害時の支援活動、災害ボランティアセンターの設置・運営の際に、内外の NPO 等多様な関係者との連携・協働を積極的に図ること。
- ・ 日常的な防災・減災の取り組みなどを通して、関係者間の「顔の見える連携・協働体制づくり」に務めること。
- ・ 社協が日常的に取り組んでいる小地域福祉活動は、地域の「顔の見えるネットワークづくり」に繋げていくことも可能であり、「安心・安全なまちづくり」の取り組みの一環として防災・減災への活動を進めることが有効である。